

臨床工学科

CIEDs（心臓植込みデバイス）遠隔モニタリングの管理

当院の循環器内科は多くの患者さんの診療を行っています。その一つに心臓植え込みデバイス（※CIEDs）があり、新規約 70 名/年、交換含めると約 100 名/年の患者さんに治療を行っています。臨床工学科では CIEDs 患者さんの外来検査、遠隔モニタリング管理を行っておりますので、マニアックな話になりますがご説明いたします。

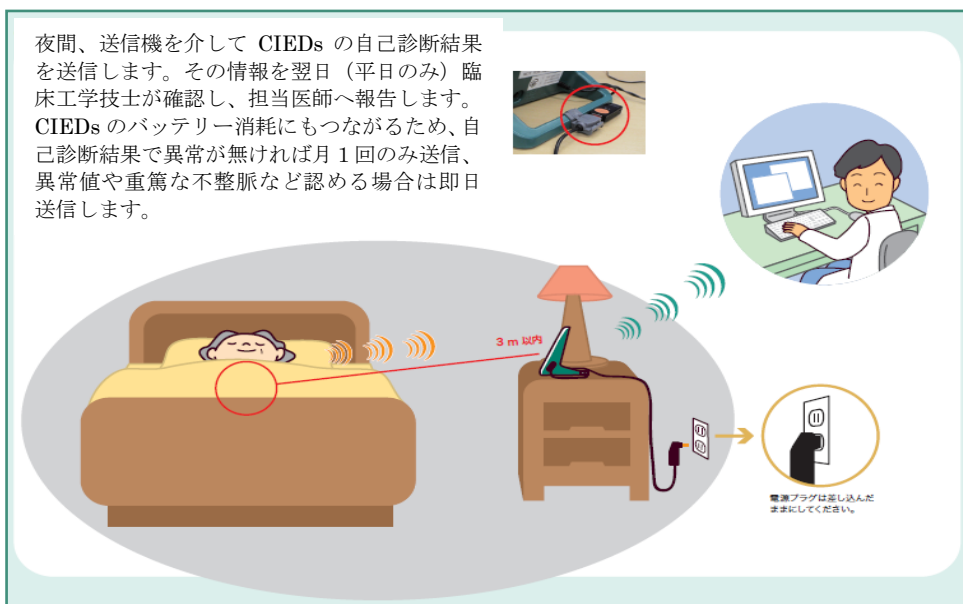
※CIEDs: ペースメーカー(PM)、植込み型除細動器(ICD)、両心室ペースメーカー(CRT-P)、両心室ペーシング機能付き植込み型除細動器(CRT-D)など多くの種類があります。

CIEDs 治療を受けられた患者さんは植込みをしたから治療完了ですという訳にもいかず、定期的に検査し調整を行う必要があります。

通常 4~6 カ月毎に外来にて検査を行いますが、近年自宅に送信機を設置すると就寝中に患者さんの情報、診断結果を送信し、病院からその情報を確認できる遠隔モニタリングの導入が積極的に行われています。

当院でも3年前から導入を拡大し、CIEDs 患者約 700 人の内、300 人以上に導入しています。

夜間、送信機を介して CIEDs の自己診断結果を送信します。その情報を翌日（平日のみ）臨床工学科技士が確認し、担当医師へ報告します。CIEDs のバッテリー消耗にもつながるため、自己診断結果で異常が無ければ月 1 回のみ送信、異常値や重篤な不整脈など認める場合は即日送信します。



図のように臨床工学科技士が毎日データ確認を行うとともに、送信されたデータは医師に報告します。緊急性があると判断された場合は、医師から患者さんへ連絡し来院いただきます。また表のように患者さんは病院に来院しなくても、毎日データ確認が行われているため安心した生活を過ごせる大きなメリットがあります。

文末になりますが、遠隔モニタリング管理には多くの労力を要しますが、患者さんの安心のため臨床工学科で協力し管理業務を行ってまいります。

臨床工学科技士長 今村博明

遠隔モニタリングの導入と非導入との違い

	導入	非導入
外来検査間隔	最長 1 年毎	4~6 ヶ月毎
データ確認・間隔	毎月（アラート確認は毎日）	外来検査時のみ
異常値・重篤な不整脈など認める場合	翌日確認（平日のみ）	外来検査時のみ
設定変更	外来検査時のみ	外来検査時のみ

高校生の1日看護体験



当院では、7月31日、高校生を対象とした大阪府主催の「一日看護師体験」を実施し、大阪府内の高校生6名が参加しました。ユニフォームに着替えた生徒たちは、午前中は普段見ることのない手術室の見学や実際にストレッチャーや車イスに乗る体験をしました。昼食は病院食(減塩食)を食べてもらいました。「おいしい」と残さず食べてくれました。

午後からは病棟で看護師とともに患者さんとの対話や足浴介助などを体験しました。

体験後は1~2年目の看護師と歓談し、看護師になってうれしかったことや学生時代の実習での辛かったことなど生徒からの質問に本音で返答していました。

6名中5名は将来看護師になりたいと言い、生徒たちにとって、看護師たちの働く姿を間近で見たことは、将来につながる貴重な体験となりました。

副院長兼看護部長 畑 幸枝

揉むだけ！簡単！夏バテ予防に！

バナナとキウイのアイス

材料【4人分】

バナナ……1本(90g)
キウイ……1個(90g)
上白糖……大さじ3
レモン汁……大さじ1
生クリーム……200mL
牛乳……100mL

夏バテ対策

汗には水分だけでなくカリウムなどのミネラルも排出されます。そこで水分補給をはじめ、ビタミン・ミネラルなど夏バテ予防に役立つ成分が入った『果物』の摂取はおすすめです。

栄養科 岡本夏海



作り方

1. バナナ・キウイは皮をむいて細かくする。材料をすべてジッパー付き袋に入れよく揉む。
2. ジッパー付き袋に空気が入らないように閉め、冷凍庫で4時間以上冷やし固める。
3. 固まったら少し揉み、器に盛る。

枚方公済病院

理念 医療への貢献と奉仕

基本方針

- 地域における中核病院として、快適な療養環境と高度な医療を提供する。
- 患者さんの立場を尊重した合理的かつ安全な医療を行う。
- 病院は働き甲斐のある職場を整備し、職員は知識と技術の研鑽に励む。
- 強く、優しく、頼れる病院を目指す。